

## 校内別室の運営について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学後 1 学期は順調に過ごしたが、2 学期に集団不適応や聴覚過敏等により不登校傾向となった。そのため別室登校に力を入れている本校に転校し、校内別室を含め、週 4 日登校と行事参加等を目標とし、在籍学級の授業も少しずつ参加することができ始めている。

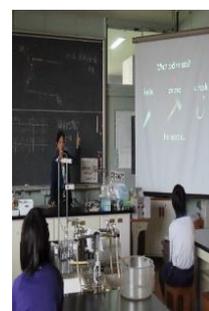
### 具体的な取組

#### ○校内別室の有効活用

校内別室では、複数人の学習が可能な広いテーブルと、個人学習用に間仕切りされたスペースを用意し、活動内容や心身の調子に応じて、使い分けをしている。このことで、集団が苦手な生徒や学習に集中したい生徒のニーズに答えることができ、当該生徒の安定した利用に効果的であった。

#### ○全校体制の別室授業等

校内別室にて理科の実験や観察、理科室の魚の飼育やシイタケ栽培、外国人講師による英語の本の読み聞かせ、ハロウィンクイズ大会等を実施した。活動に変化をつけることで、当該生徒に効果的な刺激となった。



#### ○個々の時間割作成と支援の把握

その日の過ごし方を時間割の表に自分で考えて記入する。本人に選択をさせて授業や活動を決めさせることが自己肯定感の高まりにつながった。また、都の「支援シート」を活用し、支援の手立てを校内支援会議などで共有し、生徒の状況等を把握することができた。

#### ○デジタル機器等を活用した支援

一人 1 台端末を活用し、学習コンテンツやオンライン授業等の受講を通して学びを進めた。また、都のバーチャル・ラーニング・プラットフォームを活用し、自宅にいても支援ができるようにすることで、つながりを維持することができた。

### 成果

校内別室の有効活用や全校体制による生徒理解や授業、様々な活動を行うことで、継続した登校を促すことができた。バーチャル・ラーニング・プラットフォームや「支援シート」の活用も効果的であった。

### 課題

当該生徒の校内別室の利用からその先を見据えた支援をすること、教員の全校体制による支援を継続して行うことが課題である。